

独立行政法人国立病院機構
横浜医療センター

〒245-8575 横浜市戸塚区原宿 3-60-2
TEL 045-851-2621 FAX 045-853-8359



国立病院機構横浜医療センターは、横浜市南西部地域中核病院、地域医療支援病院に指定されています。救命救急センター、ICU、CCU、SCU、小児救急、周産期センター、NICUを備えた地域の急性期型高度総合病院です。そして、令和6年4月から、念願であった地域がん診療連携拠点病院に昇格することになりました。

高難度肝胆膵手術を専門とする藤井義郎先生が外科部長として着任され2年が経過しました。今年度のトピックは、藤井先生の御指導で、矢澤慶一先生が肝胆膵手術高度技能専門医に合格したことです。関連病院で大変難しい資格を取得出来たことは本当に快挙だと思います。また、待望の乳腺外科常勤医として木村安希先生が着任されました。近隣の先生方からのご紹介があつという間に増えて、乳癌手術数が昨年度に比べ3倍に大幅に増加しました。

診療は、藤井外科部長以下、8名のスタッフと3名の外科専攻医が2チームに分かれて診療を行っています。2023年の主な手術件数は、乳癌切除62例↑、胃癌切除25例（う

ち腹腔鏡下手術15例）、大腸癌切除119例（腹腔鏡下手術率98%）、肝切除20例、膵頭十二指腸切除15例、腹腔鏡下胆嚢摘出69例、虫垂切除39例、単径ヘルニア根治術88例でした。手術総数は687件で、コロナ禍以前にはまだ及ばない件数でした。

若手外科医にとっては、大小の消化器手術から外傷系の緊急手術まで幅広く執刀経験ができます。外科専攻医の育成にあたっており、現在3名修練中、今春更に2名が新規採用になります。研修医の先生たちにも外科手術の楽しさを伝えるべく、切開縫合手技以外にも、単径ヘルニアの執刀を経験してもらっています。今年は12人の初期研修医が外科を研修しました。今後も外科医になる若手を増やせるように尽力していきたいと思っています。

今後とも地域で選ばれる病院になるべく、スタッフ一同協力しあって日々診療を頑張っていきたいと思えます。同門会の先生方には今後とも御指導、御協力の程どうぞよろしくお願い申し上げます。

（文責：松田悟郎）



令和5年の横浜市立市民病院は、長らく市民病院に勤務されていた石山暁先生と高橋正純先生が3月末で定年退職されたため、4月から新体制で始まりました。また新型コロナウイルスの感染症も、5類に移行したとはいえ時折感染者数の増加が見られ面会制限が実施されました。今後は、この感染症との共存がなお一層求められます。

令和5年の外科は、消化器外科6人（うち大学ローテート4人）、炎症性腸疾患外科4人（うち大学ローテート1人）、乳腺外科は3人（うち大学ローテート1人）のスタッフと3人の後期研修医、2ヶ月毎にローテートする3人の初期研修医で診療を行いました。外科スタッフ一同、外来、病棟、手術、救急診療と日夜仕事に励んでいます。

さて、外科が消化器外科、乳腺外科、炎症性腸疾患外科の3つに別れてから、15年が経過しました。2023年の総手術件数は、外科全体で1291例でした。内訳は消化器外科845例、炎症性腸疾患外科287例、乳腺外科159例でした。

消化器外科では、大腸癌手術症例数は前年より10例減りましたが、腹腔鏡下の手術の割合は昨年同様89%でした。また、ロボット支援手術は、直腸癌では21例、結腸癌では18例でした。平成29年から導入した腹腔鏡補助下直腸固定術（直腸脱の根治術）は81例行いました。胃癌

手術症例数はやや減少し、肝胆膵領域では膵頭十二指腸切除術13例行いました。

乳腺外科では、4月から嶋田和博科長が着任し、前年とほぼ同じ手術件数でした。今後は、地域連携バスのこれまで以上の活用と横浜市乳がん連携病院としてのメリットを生かして、手術件数の増加に繋げたいと思っています。

炎症性腸疾患外科は、手術件数は前年とほぼ同数で、従来通り関東圏はもとより全国から患者を受け入れています。また鏡視下手術も症例を選んで行なうようになり少しずつ増えています。

2020年度から始まった初期研修医のプログラム（外科コース）には、2023年度も多数の応募の中から2名がマッチングしました。また、2023年度の外科専攻医は3人で当院の初期研修医からの応募でした。当院の初期研修プログラムから外科専攻医を選択する研修医が、一人でも多くなることを期待しています。

今後も地域中核病院として周辺の医療機関と連携を密にし、より一層地域医療に貢献していきたいと思えます。これからも、ご指導ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

（文責：望月康久）

横須賀共済病院

〒238-8558 横須賀市米ヶ浜通 1-16

TEL 046-822-2710 FAX 046-825-2103

横須賀共済病院は、古くは1906年に横須賀海軍工廠職工共済会医院として開設。戦後は海軍共済組合から財団法人共済協会、非現業共済組合連合会へ継承され、その後、国家公務員共済組合連合会（KKR）所属となった歴史のある病院です。

横須賀市、三浦半島における中核病院として、地域医療支援病院、がん診療連携拠点病院、神奈川県災害医療拠点病院、神奈川県DMAT指定病院として急性期疾患からがん診療までスタッフ一同診療に励んでおります。

内閣府の戦略的イノベーションプログラム（SIP）「AI（人工知能）ホスピタルによる高度診断・治療システム」に採択され、さらに2019年～2024年まで6年連続でNewsweekに当院がWorld's Best Hospitalの一つに選ばれるなど、国内外にまで認められております。

医局からの派遣は変わらず、長堀薫院長のもと、舛井秀宣部長、野尻和典部長、小野秀高副部長、医長として吉田謙一、諏訪宏和、太田洋平、鈴木千穂、太田絵美の8名と、シニアレジデント8名の計16名が2-3人ずつの5チームに分かれて診療にあたっております。

2014年4月に就任した長堀薫院長は「若手外科医が楽しんで仕事する。救急は全応需する。」ことを強調されており、若手スタッフは以前よりもさらに多くの手術を経験するようなる傾向にあります。2023年の手術件数は年間1,321件で、コロナ禍の手術数減少からからは徐々に増えてきております。一方で、当直後のスタッフのoff dutyが義務化や有給休暇の取得、産休や、男性医師の育休の推進など、忙しいながらも、しっかり休むことが出来る様に努力しております。

病棟は、5チームに分かれて診療にあたっており、チーム内の受け持ち患者は臓器別に分かれていません。また、当院の研修医はやる気のある先生が多く、各チームに配属されて一緒に診療にあたっています。

ロボット支援下手術も積極的に行っており、本年度は、結腸切除と胃切除も開始しました。

術後のフォローアップは従来通り、横須賀医師会、近隣病院と連携して地域連携パスを適応しており、胃癌、大腸癌、乳癌の早期癌患者は、ほぼ全症例、後補助化学療法が必要な患者様も、地域連携パスを導入して紹介していただいた先生方に見て頂いております。

毎月の地域診療所の先生方、病理、消化器内科、外科合同の消化器病カンファレンスも再開されましたが、それを発展させた形の横須賀消化器病セミナーは、本年は引き続き中止となってしまいました。

ハード面では、新棟建築が正式に決まりました。A棟・B棟・外来棟1号館及び増築棟を除く、経過年数40年以上の建築物7棟を廃して、サブライ棟・中央診療棟・エントランス棟の3棟を2031年度までに整備する計画です。竣工予定はサブライ棟2026年度、中央診療棟2029年度、エントランス棟2031年度となっております（図1）。

厚労省による働き方改革により、24時間365日の外科医当直から、（日）、（水）、（木）、



南西側鳥瞰



南側正面



北側道路より計画建物を見る

図1 新棟完成予想図

(土)の外科医当直と、(月)、(火)、(金)はオンコール体制、土日の包交の少人数化(前日の当直医と、当日の当直医の2名のみ)も、導入当初は戸惑いがありましたが、徐々に軌道になってきております。当然ながら、休日夜間の手術は減少し、可能な限り平日日中に行うようになってきております。

当院の理念『よかった。この病院で』が実践できるべく、今後もさらなる地域医療支援、がん診療連携拠点病院として、地域医療に貢献し、質の高い水準の医療を提供できるように、若手外科医の教育を含めて精進する所存です。今後とも、益々のご指導、ご鞭撻のほど、何卒

宜しくお願い申し上げます。

(文責：小野秀高)



横浜市立みなと赤十字病院

〒231-8682 横浜市中区新山下 3-12-1
TEL 045-628-6100 FAX 045-628-6101



横浜市立みなと赤十字病院は、横浜市民のための市立病院であり、日本赤十字社が指定管理を行う赤十字病院でもあります。

2023年度は、外科では、杉田光隆先生、佐藤圭、土屋伸広先生、田鍾寛先生、阿部有佳先生、田中宗伸先生とシニアレジデント3名の計9名で診療を行ってまいりました。また、乳腺外科では、清水大輔先生、須藤友奈先生、藤田亮先生の3名が診療を行っております。

当院は、医局関連施設の一つである横須賀共済病院とともに、全国で2、3番目に年間の救急車受け入れ台数が多い施設です。それに伴い緊急手術も多く、上・下部消化管穿孔、急性虫垂炎、急性胆嚢炎、絞扼性腸閉塞、ヘルニア嵌頓、腸管虚血症など、外科医が習得すべき緊急手術を数多くおこなっております。しかし、2023年度は救急対応に関する体制に大きな変化がありました。これまで救急外科部長として長らく当院で勤務されておりました馬場裕之先生が年度の途中でご退職されました。また、働き方改革による長時間連続勤務制限もあり、年度初めよりも常に1-2名減員の状態で勤務せざるを得ませんでした。そのような厳しい状況の中でも、外科一丸となって治療にあたることで、これまで同様に可能な限り急患をお断りすることなく対処する方針を継続しております。

外科では、肝胆膵グループと消化管グループの2チームにわかれ日々の診療にあたっています。肝胆膵領域では、杉田部長のご指導の元、膵頭十二指腸切除や肝切除の高難度肝胆膵外科手術を継続的に行っております。また、症例に応じて腹腔鏡下肝切除も積極的に行っております。大腸・肛門領域では、多くの症例で鏡視下手術が行われています。直腸癌に対するロボット手術はこれまで同様に週に1件のペースで継続的に行われております。また、2024年2月には結腸癌に対するロボット手術を開始しました。当院における手術支援ロボットがda Vinci SiからXiに更新されたこともあり、今後はより一層ロボット手術を行っていく環境が整いつつあります。上部領域では、佐藤が赴任以降、鏡視下手術の適応拡大をすすめています。当院は高度進行癌が症例の多くを占めていますが、2022年度以降は、進行胃癌に対してもほぼすべての症例で、食道癌に対しては全例で鏡視下手術を施行しております。

赤十字病院としての側面と同時にがん診療連携拠点病院としての役割を果たすべく、質の高い医療を提供できるようにこれからも精進してまいります。これからもご指導、ご鞭撻の程、よろしく願いいたします。

(文責：佐藤 圭)



2023年度の人事異動では、大田、中崎が退任し、代わりに南、千田、佐原が着任しました。診療体制は、山岸、牧野、菅江、南、浅野、森、千田、佐原に加えて、外科専攻医3年目の本田と東京医科歯科大から1名派遣を加えた10名で診療しました。例年同様に、千田、佐原、本田と東京医科歯科大からの1名が救急外科をローテーションし、緊急手術、外傷治療に携わりました。呼吸器外科のローテーションは廃止となり、必要時、支援する体制となりました。

2023年1月～12月の外科手術件数は、総数932例（2022年895例）で、定時手術657例、緊急・臨時手術118例でした。緊急手術は若手外科医が担当し、手術適応・説明と同意・手術・術後管理を一貫して行い、修練の場となっています。領域別の手術件数は、乳癌170例、胃癌23例、結腸癌103例、直腸癌59例、原発性肝癌3例、転移性肝癌6例、胆道癌3例、膵癌18例、胆石症103例、虫垂炎101例、鼠径ヘルニア104例でした。今年度も乳癌症例が多く、前年と同数でした。それに伴い乳腺外来も患者さんが非常に多く、また、菅江は、当院でのゲノム医療の中核的役割を担っており、大変多忙な状態であります。月曜日は横浜立大学附属病院から派遣の押が、火、木曜日は外勤医師が診療を補助し、菅江の負担軽減に努めています。

胃癌は疾患自体の減少と消化器内科が積極的にESDを施行することが相まって、年々減少傾向ですが、LDGはガイドラインに則り年間8例施行しました。大腸癌に対する腹腔鏡手術は89例（67.9%）、ロボット支援手術36例（27.4%）、開腹6例（4.6%）でした。肝・胆・膵は例年通りで、腹腔鏡下での肝切除や膵体尾部切除も安全に行っています。

今年は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止していた、地域の小学生と保護者を対象とした「病院お仕事体験ツアー」は復活して開催し、微力ながら地域貢献できたものと考えております。また、地域の開業医の先生方と消化器内科、外科合同カンファレンスは引き続き継続し、2か月に一度院内で紹介患者さんの情報交換と症例検討会を行い、顔の見える交流の重要性を認識しています。

学術関連は、学会発表が53演題（ビデオシンポジウム1演題、シンポジウム3演題、パネルディスカッション4演題、ワークショップ6演題）で、筆頭論文発表は4題でした。筆頭論文に関しては、うち2題が英文論文でした。

これからも、地域医療に貢献し、高水準の医療を提供できるよう努力してまいりますので、ご指導、ご鞭撻のほどを何卒よろしくお願いいたします。

（文責：牧野洋知）



◆ 関連施設勤務者

- 部 長 長谷川誠司 (H.2)
 上田 倫夫 (H.6)
 外科医員 村上 崇 (H.18)
 三宅 益代 (H.21)
 木下 颯花 (H.28)
 富田硫富人 (H.29)

済生会横浜市南部病院は横浜市と済生会の共同で建設され1983年に開院した、27診療科500床の地域中核病院です。急性期医療を担うとともに、地域医療機関との病診連携も推進し、神奈川県がん診療連携指定病院として、がん診療支援センター（センター長：長谷川）を中心にがん診療体制の充実を計っています。一方、開院から40年近く経過し、施設の老朽化・狭隘化が課題となっており、旧資源循環局港南工場跡地を移転先とし、2028年度の開院に向け準備を進めているところです。

COVID-19感染症も5類感染症対応へ移行となったことから、地域医療機関との連携研修会もオンラインからハイブリッドへと変更しつつ、定期的で開催して参りました。地域の方々との交流も市民公開講座等から再開し、今後はブラックジャックセミナー等の再開も目指しています。

当院は第二外科と第一外科の両医局から派遣されており、第二外科からは長谷川誠司、上田倫夫、村上崇、三宅益代、木下颯花、富田硫富人の6名、第一外科からは虫明寛行、土田知史、吉田達也、本庄優衣、中園真聡、神谷真梨子、杉山敦彦、坂口裕介（柴葉裕介）、深田玲於奈、水谷百代、大倉拓の11名、計17名でした。

外科手術は例年の1200件／年程度でしたが、COVID-19蔓延以降は1000件台に減少したままで、悪性疾患は食道癌1件、胃癌39件、大腸癌147件、肝胆膵系癌74件、乳癌127件と概ね変化が見られませんでした。良性疾患はヘルニア関連手術223件、虫垂炎73件、イレウス26件と若干

減少しましたが、緊急手術は相変わらず多く、急性期充実体制加算届け出の維持に必要な全身麻酔による緊急手術件数は2023年度で181件となり、病院全体の必要件数の半数近くを外科で担ったこととなり、経営にも貢献しているものと思われます。

薬物療法は外来薬物療法センター（センター長：長谷川）を中心に施行しています。薬物療法の4割超を外科が占め、単科としては最多を維持しています。一方で、全体の施行件数は2015年の4000件／年程度から年々増加の一途を辿り2023年には6800件に達しました。施行件数の増加に伴い、待ち時間や時間外診療の延長など患者様・医療スタッフへの負担が課題と考えていますが、薬物療法運営のシステムの改善やタスクシフト等、創意工夫にて、今のところ課題の克服、質の向上がなされているのではと実感しています。

福島忠男の移動後は虫明寛行が外科主任部長を担い、総合患者支援センター（入退院支援、福祉医療相談、地域医療連携）も兼務しておりますが、これらも順調に運営されており、地域連携、がん診療など当院の中心的な役割を外科が担っています。

2028年度の新病院開設に向けては資材の高騰等により一部計画の見直しが行われるなど、新たな問題も山積していますが、『新病院建設の原資となる内部留保の拡大のため最大限の努力を尽くす』を目標に院内で一致協力して邁進してまいりました。今後も地域医療支援病院として、また、がん診療連携拠点病院の認定取得を目指しつつ、がん診療連携指定病院として医療情報共有と高度医療の提供、がん診療体制の充実及び地域との連携活動を推進し、患者様の信頼に応えられるような地域トップクラスの医療を目指していきたいと思っております。これからもご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

（文責：長谷川誠司）

横浜労災病院

〒222-0036 横浜市港北区小机町 3211

TEL 045-474-8111 FAX 045-474-8323

横浜労災病院乳腺外科は、前部長の千島隆司先生が昭和大学北部病院の教授にご栄転されたため、常勤医は筆者山本と井上栞先生の2名体制で診療を行うこととなりました。偉大な千島先生がとても大きな乳腺外科を築き上げられ、平凡な山本が部長となり、かつ人員削減の中で行う診療には不安がありましたが、無事1年間診療を遂行できました。手術件数は200件弱/年と常勤2人にしてはかなりの数を行いました。また化学療法件数も1500件/年程度施行いたしました。これはひとえに診療応援をしてくださった非常勤の先生方やチーム医療としてそれぞれの専門家の方達がチームを支えて下さったお陰と思います。そして何よりも千島先生が残して頂いた正の財産が莫大であったこと、そして井上医師がとても優秀であったおかげです。井上医師は手術がとても上手く、仕事が正確、迅速であり、例えるならスーパーコンピューター“富岳”みたいな感じでしょうか。かたや筆者山本はwindows XPみたいなもので、たまにキャパオーバーでフリーズしながら、一生懸命やっています…。

さて横浜労災病院は新横浜駅から徒歩圏内にあり、立地条件はかなり恵まれています。新横浜は港北区に位置し、港北区は横浜市内でもっとも人口の多い区となっております。また相鉄・東急新横浜線の開通に伴い、東京方面からも1本で来院できますし、二俣川などからも1本となったことで、かなりの広範囲の地区からのご紹介を受けることができるようになり、病院としても診療圏拡大に力をいれているところであります。ちなみに“のぞみ”で名古屋も一駅でいけます（まあ行かないですかね…）。

労災病院は病院の使命の一つである、治療と仕事の両立支援に力をいれております。40代、60代の方が罹患することが多い乳がんの疾患特異性から我々は特にこの分野での活躍を期待されております。近年化学療法において時間毒性という概念が注目されております。これは治療をうける方が治療にかかる時間や通院頻度が増えると、仕事や家事などにさける時間が減ってしまうということですが、“時間”は医療を提供する医療者にも重要な概念



です。4月からは医師の働き方改革も本格始動いたしますが、質の高い医療を行うためには、医療者自身が心身に健康的であることが重要です。当科では医療レベル、スタッフのやりがいを維持しつつ、我がチームスタッフの仕事と私生活両立支援にも力をいれております。まだまだ課題は山積みですが、少しずつ前進していけたらと考えております。

その他、乳癌診療のトピックである、遺伝診療、乳房再建、アピラランスケア外来にも力をいれております。遺伝性乳癌卵巣癌症候群における対側乳房予防切除も患者さんの希望に添って施行しております。また形成外科の先生方のレベルが高く、人工物再建のみならず、血管吻合を伴うDIEP再建などの自家組織再建を伴う症例も数多く診療しております。皮膚科の先生方のご尽力により化学療法時の爪障害などアピラランスケア外来も開設されております。

これらは前部長の千島先生が確立された業績がほとんどですが、千島先生が退任された今、後任の我々でこれらを維持しさらに発展させていけたらと思います。

2024年度も引き続き、ご支援ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

(文責：山本晋也)

地域医療推進機構 (JCHO)
横浜保土ヶ谷中央病院

〒240-8585 横浜市保土ヶ谷区釜台町 43-1
TEL 045-331-1251 FAX 045-331-0864

JCHO横浜保土ヶ谷中央病院は全国57か所にある地域医療機能推進機構 (JCHO) 病院の1つです。許可病床数260床 (稼働病床数246) で患者さんは主に近隣の保土ヶ谷区、旭区、神奈川区の方が多く、地域に密着した医療・健診・福祉の総合施設として機能しています。

今年度は大きく診療体制が変わりました。長年当院に多大な貢献をされてきた院長の池秀之先生、部長の上向伸幸先生、谷口浩一先生が2024年3月に退職されました。代わって4月に院長の國崎主税先生、部長の武田和永先生が赴任され、簾田康一郎先生 (昭和60年卒)、有坂早香 (平成20年卒)、中崎佑介 (平成25年卒)、血管外科の斎藤健人先生の6人で診療を行っています。下部消化管の腹腔鏡手術では湘南鎌倉総合病院の藤井正一先生やみなと赤十字病院の中野雅之先生に指導に来て頂いております。また乳腺外科は非常勤の足立祥子先生に外来診療や手術も担当して頂いております。

昨年度の手術総数は288件でした。内訳は胃癌7例、結腸・直腸癌39例、肝切除7例、鼠径部ヘルニア68例、虫垂切除術35例、胆嚢摘出術61例などでした。低侵襲手術と



して腹腔鏡手術を積極的に行う一方、高度進行癌に対しても術前化学療法や化学療法後のadjuvant surgery, conversion surgeryなども積極的に行っております。当院の特徴として複数の併存疾患を持った高齢者や有症状の進行癌が多く術後管理に難渋することもあります。安全を第一に考え、コメディカルの方々とも密に連携を取って自宅退院を目標に診療にあたっております。

今後とも、益々のご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

(文責：有坂早香)

横浜掖済会病院

〒231-0036 横浜市中区山田町 1-2
TEL 045-261-8191 FAX 045-261-8149

横浜掖済会病院は全国8か所にある掖済会病院の1つで、1896年 (明治29年) に当時の横浜海員寄宿所内に病室を設け患者を収容することとしたのが起源ですが、第2次大戦後は船員の方のみならず地域住民の皆様の医療の充実および健康の増進に尽力し、さらに社会福祉の面でも貢献しております。

令和5年4月から佐藤芳樹先生 (副院長)、山口直孝 (平成13年卒)、清水亜希子先生 (平成27年卒)、11月からは清水先生が産休に入られたため山田淳貴先生 (平成24年卒) に来ていただき常勤3人で診療を行っています。

手術症例数は、主に鼠径部ヘルニア80例 (腹腔鏡60例、前方法20例)、腹壁癍痕ヘルニア5例、胆嚢摘出術15例など、188例と多くはありませんが、今までの方針に沿い、rotatorの先生に手術を執刀していただく機会を確保しております。しかしながら、当院で発生したコロナクラスターによる予定手術の中止などが影響し、昨年度より鼠径部ヘルニアの手術症例数が減少し手術経験の機会が失われていることを懸念し、症例数を確保すべく近隣の開

業医の先生方との連携を一層深めていきたいと考えております。

一方で、昨年に引き続き、大腸癌の腹腔鏡手術に関しては、横浜市立大学附属市民総合医療センターの渡邊純先生に来院していただき、また、胃癌の腹腔鏡手術に関しては南大和病院の高川亮先生に来院していただきご指導いただきました。水曜日には横浜市立大学附属病院の松山隆生先生に非常勤で来ていただき、腹腔鏡下胆嚢摘出術や開腹手術 (胃癌、大腸癌) などの手術を行うことができました。

金曜日の午前中に非常勤で来ていただいた小林圭先生 (平成27年卒) に、主にヘルニア手術にはなりますが、執刀していただき、当院で行っている高位腹膜切開による腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術の手技を経験していただきました。

横浜掖済会病院の基本理念は、『掖済 (導き・助ける) の精神に基づき、安全・信頼・敬愛の医療を目指す』です。患者様とのコミュニケーションを大切にし、患者様中心

の満足度の高い医療を目指しております。急性期一般病院として、また、大病院の後方支援を担いながら近隣の開業医の先生方から気軽に患者様をご紹介いただける病院を目指しつつ、新病院移転に向けて今後もなお一層努

力を続けていきたいと思っております。

これからもご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

(文責：山口直孝)

一般財団法人
育生会横浜病院

〒240-0025 横浜市保土ヶ谷区狩場町 200-7

TEL 045-712-9921 FAX 045-712-9926

◆ 関連施設勤務者

院長 長堀 優 (S.58)

老健、特養を併設している当院は、急性期大病院の機能を補てんすべく、高齢者医療に力を入れているのが特色です。急性期病院と密接に連携し、治療後すぐには自宅に戻れない患者さんを当院で引き受けて治療を続けています。

さらに200床以下の当院は、訪問診療を担ういわゆる「在宅療養支援診療所」の医師との連携を結ぶことができます。当院と連携した診療所は、入院ベッドを確保しているものと認定され、医学総合管理料に則り、患者宅ないし施設を訪問した際に加算を得ることができます。また、連携診療所からは、訪問している患者さんの緊急時（看取り、熱中症や肺炎など）や、レスパイト入院（一時預かり）、リハビリ入院などを当院に依頼されることとなりますが、令和4年度は、患者の緊急入院依頼が激増

しています。

このように連携診療所と当院が密に協力し合い、良好な連携を築くことが、そのまま地域医療への貢献につながり、地域包括医療を充実させていくものと考えています。

外来診療でも、JCHO横浜保土ヶ谷中央病院、聖隷横浜病院、医師会の先生方等、近隣医療施設からのご支援を頂き、糖尿病、泌尿器、皮膚科、整形外科、緩和ケア、小児科、婦人科、漢方内科等の専門外来を開き好評を得ています。

また、令和5年6月より、

◎ 胸部X線・CT画像診断支援AI、

◎ 脳梗塞・心筋梗塞発症リスクの目安となるLOX-index、

◎ 腸内環境のマーカーとなる腸内フローラスキャン、

など種々のオプションを備えた検診や、職員福祉も兼ねたアロマケア外来、水素外来などを新設し、近隣の皆様からも好評を得ています。令和6年4月より、眼瞼下垂手術、皮膚ケミカルピーリング、ビタミンCイオン導入など選択肢を増やす予定です。この先も、医局のご支援を仰ぎながら、地域医療を充実させてまいります。

なお、当院の名誉院長でいらした塩谷陽介先生が、令和5年9月4日ご逝去されました（享年88歳）。私自身、研修医時代にメスや持針器の持ち方など外科医の初歩から丁寧に教えていただいたばかりか、外科医として私の最後のキャリアが塩谷先生の後任という浅からぬご縁に感謝しかありません。塩谷先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(文責：長堀 優)



当院敷地内に設営したアロマケア外来用のドーム

横須賀市立市民病院

〒240-0195 横須賀市長坂 1-3-2

TEL 046-856-3136 FAX 046-858-1776

I. 当院は最初の東京オリンピックの前年、昭和38年（1963年）12月横須賀市立武山病院として開院しました。以来60年余になる、横須賀市・三浦半島西部地区の中核的病院です。

西には豊饒の海相模湾、東には半島随一の頂、大楠山を望む風光明媚な場所に位置しています。病棟から仰ぎ見る三浦半島の山並みはなかなかのもので、最上階の和食レストランからは相模湾越しに絶景が望めます（ホームページをご参照下さい）。

横浜横須賀道路の料金改定と近道で横浜方面からもぐっと近く、短時間で通勤可能になっています。

2023年度のメンバーは管理者・関戸仁（昭58）以下、副院長・診療部長の長嶺弘太郎（平6）、中山岳龍（平20）、藤原大樹（平24）、堀達彦（平26）、日大出身の杉浦浩朗（平6）ら個性溢れる面々で日夜診療に励んでいます。

II. 外科診療に関しては高齢化社会の波を受け、高齢者の重篤な症例も本当に多くなりました。

患者さんとそのご家族の期待に応える困難さを痛感していますが、これら困難な症例にも一丸となって対応しています。

年間の手術症例は350例ほどですが、術者はほぼ若手ローテーターですので、十分な手術経験、修練が積めます（最近のローテーターに確認して頂ければ…）。

医局員の皆さん！是非我々と一緒にここで働いてみませんか。



2023年度（令和五年度）メンバー（2024年3月撮影）

開院以来周辺住民の皆さんから信頼され地域に密着した病院で（来れば本当に実感します。）必ず皆さんのやる気をおこさせてくれる病院です。

そして厳しく、激しい仕事の後には横須賀、三浦半島のグルメを堪能してください。もちろんデートスポットも海沿いを中心としてたくさんあります。

最後になりましたが、同門の先生方におかれましては新年度も引き続き、ご指導ご鞭撻のほどを賜りますようよろしくお願い申し上げます。

追伸：コロナ5類への変更、医師の働き方改革のスタート、医療DXへの取り組み等、世の中が急速に変化していくのを現場でも実感しつつある昨今、本文章に触れていただき有難うございます。

（2024年3月 文責：長嶺弘太郎）



茅ヶ崎市立病院

〒253-0042 神奈川県茅ヶ崎市本村 5-15-1

TEL 0467-52-1111 FAX 0467-54-0770

茅ヶ崎市立病院は、1943年12月、第二次世界大戦の最中にその前身である「町立千ヶ崎病院」として発足しました。松並木生い茂る、旧東海道国沿いにあった病院は、素朴な木造2階建てであったと聞いています。

それから70年以上経過し、茅ヶ崎市には総合病院が複数設立されましたが、当院は市内唯一の400床以上の病院であり、湘南東部医療圏の基幹病院として機能しています。2016年に山田顕光先生の赴任と同時に設立された乳腺外科は、2022年4月より、和田朋子（平20）、村上剛之（平26）の2人体制で勤務しております。

もともと茅ヶ崎市は、乳がん検診受診率が県内最低レベルに低く、当院を受診される患者さんは他の地域に比較して進行している傾向にありました。更にCOVID-19の蔓延もあり、2020年以降、手術件数は減少していましたが、その結果であるかのように昨年度は初発の乳がんの患者さんの1割がStageIVという状態でした。

若年の進行がん患者さんも多数おられ、アピアランスケアをはじめ、妊孕性温存、就労支援、子育て・介護の支援など治療を継続するうえで必要な支援も、他職種で取り組んで提供できるようにしています。

2021年4月に前任の嶋田和博先生が力を注がれた化学療法室が稼働を開始し、お仕事をしながら化学療法を受けられる患者さんの姿も見られるようになりました。サ



バイパーが多い疾患でもあり、社会生活や時間など、治療で失うものを極力少なくなるように心がけています。

きちんと治療をする環境が市立病院に整っている、ということを知っていただき、怖がらずに検診を受けていただくように、地域密着で取り組んでまいりたいと思います。

同門の先生方におかれましては、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

（文責：和田朋子）

松島病院大腸肛門病センター

〒220-0041 横浜市西区戸部本町 9-11

TEL 045-321-7311 FAX 045-321-7330

松島病院大腸肛門病センターは本年、100周年の節目を迎えます。これもひとえに地域の先生方の支えによるものであり感謝に堪えません。

当院は長らく、肛門科に特化した松島病院と、大腸内視鏡検査と治療を主とした松島クリニックに分かれておりましたが、昨年2023年5月に統合し、新たな恵仁会松島病院大腸肛門病センターに生まれ変わりました。以前はどちらに紹介すべきかなど非常にわかりにくく地域の先生方にご迷惑をおかけすることも多々あったかと思いますが、今後は松島病院あてにご紹介いただければ当院の方でご紹介内容を確認の上適切な診療を行います。また、予約などに関しては地域連携室にご連絡いただければ対処させていただきますので、ご活用くださいますようお願い申し上げます。

医局は肛門科と胃腸科がひとつになり、さらに今年は肛門科・胃腸科ともに経験豊かなベテランと若くフレッシュな新戦力が加入しました。今後、ますます地域の患者さんや先生方のお力になれるよう医師・職員一丸となって努力してまいります。

そして本年は、当院の松島小百合医師が女性として初めて日本大腸肛門病学会総会の副会長をつとめることになりました。松島小百合医師、前大腸肛門病学会会長である宮島伸宜院長、そして松島誠理事長を中心に、総員の努力のもと学術集会の成功のために頑張っております。本年も松島病院大腸肛門病センターをどうぞよろしくお願い申し上げます。

（文責：松村奈緒美）

港南台病院

〒234-8506 横浜市港南区港南台 2-7-41

TEL 045-831-8181 FAX 045-831-8281

教室からは名誉教授の嶋田紘先生（昭和44年卒）に顧問としてご勤務いただき、大塚（平成8年卒）が院長として勤務しております。嶋田先生が医局内で私の隣の席にいらっしゃることもあり、ちょっとした迷いや判断を迫られる際にも、気軽に相談、議論を申し上げることができ、私自身が院長として働きやすい環境にいると思います。今年も、大学や、横浜市南部病院から外勤として外来、訪問診療、日当直業務などで尽力いただきました。また、外科以外にも大学の各医局より人事的サポートを受けており心より感謝申し上げます。

2023年4月から9月まで昭和54年の開設より40年以上経過した港南台病院を全面改装するために、港南台病院を休院しました。この間、職員は法人内のよこはま港南台地域包括ケア病院で通常業務を行いながら、2023年10月より港南台病院を再開しております。看護人員の問題から約6割の病床運用を続けておりますが、現状では安定した稼働に達しました。人員の調整が済み次第、77床の全病床稼働を目指しております。診療においては地域の中で当院だけが行っている何かがあるような唯一性の

ある組織でありたいと常に思っています。地域の中での潜在的なニーズを掘り起こしながら、自分たちができることを追求していきたいと思えます。

職員に長く安心して勤めて頂けるように、また、人を育てる組織になれるように注力しています。この一環として、昨年から全職員との面談を行いました。約80人の小さな組織だからできたことと思います。一人一人の今までの経歴や、得意なこと、逆に不得意なことなどざっくばらんにはなしながら、人によっては個人的な事情も聴ける範囲で伺いながら進めていきました。この「面談マラソン」は大変な業務ではありましたが、組織に対するエンゲージメントに少しでも貢献できているものと確信しています。人材確保という点では日本人の雇用だけにとどまらない、国際的な人財開発が大切であると考えています。ベトナムやミャンマーからの介護を中心としたスタッフは現場で戦力になっており大活躍してくれています。「Think Globally, Act Locally」を実践していくことの大切さをいまさらながら感じております。

（文責：大塚裕一）

伊東市民病院

〒414-0055 伊東市岡 196-1

TEL 0557-37-2626 FAX 0557-35-0631

2023年も当院は横浜市大消化器・腫瘍外科から神谷と、地域医療振興協会内の異動で城野医師、天池医師、地元出身の小倉医師の常勤4名、協会内連携施設からの専門専攻医1名の計5名で診療をおこなってまいりました。この数年スタッフ数が安定したことで手術件数の増加や緊急手術にも対応できるようになり他院への搬送はほとんどなくなりました。とは申しまして5名のうち3名は55歳以上であり、今後の体制に頭を悩ませています。

1年間の手術件数は335件で横ばいでした。内訳は大腸癌の根治手術が42件（うち鏡視下手術約70%）、胃癌9件、乳癌18件、鼠径ヘルニアが85件（TAPP 65件）などとなっています。

当院では現在医師の高齢化と看護・介護スタッフやセラピストの離職が大きな問題となっており、病床をいかに維持するか、苦しい日々が続いています。また伊東市の高齢化率は43.8%（R5年）で、国の14年ほど先を行っています。人口が減り小学校も統廃合され、病院や街が少しずつ縮小していくのを感じ、大変寂しく思っています。



とはいえ交通機関が不便なこの地域においては、家族が自家用車で高齢の患者さんを送り迎えられる当院で手術を受けたい、という患者様がまだまだおられます。“遠くの病院まで行けない”という患者さんが中心ですが外科チームが充実したことで天池肝胆膵外科部長を中心に肝門部胆管癌に対する拡大肝切除やPDも慎重な術前評価の

上おこなっており、「縮小」とは書きましたが外科手術患者さんについては今のところ減少する気配はないようです。

今後も地域のご希望に応えられるよう、消化器・腫瘍

外科で先輩方から学んだ質の高い診療を提供できるよう取り組んでゆきたいと思っております。本年もよろしくご厚意申し上げます。

(文責：神谷紀之)

NTT東日本関東病院

〒141-8625 東京都品川区東五反田 5-9-22

TEL 03-3448-6557 FAX 03-3448-6558

NTT東日本関東病院の近況報告です。2022年度から消化器・腫瘍外科からは樅山1名のみの体制となっています。いままで手術指導として長きにわたって関東病院の外科を支えてくださった同門の古嶋薫先生（S54卒）も、この3月で退任されました。いままでありがとうございました。

2023年度の手術件数は、緊急手術を含めて約1200件でした。特に、地域の開業医の先生方々と外科医とが直接相談できる腹痛ホットライン経由での緊急手術症例も多く、悪性疾患の症例だけでなく、急性腹症の手術も数多く行っております。

NTTの外科は上部、下部（2チーム）、肝胆膵、ヘルニア一般の5チームで編成されており、専攻医は、外科専門医はもちろん、消化器外科専門医に必要な症例を3か月毎のローテーションで経験していただいております。

大腸癌手術は原発切除が約200例／年を維持しており、直腸癌も約60例前後を維持できております。大腸癌手術数に関しては都内での症例数の比較的多い施設となっております。消化器内科が内視鏡治療に力をいれているため、院内からの紹介症例数が多いという幸運もありますが、きっちりとした外科治療ができているのも選ばれている理由だと思っております。手術は腹腔鏡手術を中心に行っておりますが、一定数開腹手術も経験できるようにもしております。ロボット支援下手術は、結腸癌・直

腸癌手術は併せて50例以上施行しております。昨年7月にda Vinciが2台体制になりましたので、大幅にロボット支援下大腸癌症例が増えております。

ロボット支援下手術は、2022年12月からは術者資格が大幅に緩和されたのに伴い、消化器外科専門医はもちろん、助手経験を積みれば誰でも執刀するチャンスがあります。また、助手資格のない先生には積極的に助手のcertificateを取っていただいて、手術に参加してもらいます。

上部チームでも胃癌・食道癌手術もロボット支援下で行います。また、肝胆膵チームではロボット支援下膵体尾部切除を開始し、腹腔鏡下肝切除も徐々に増えてきております。癒痕ヘルニア、鼠経ヘルニア、虫垂炎症例も積極的に腹腔鏡手術を導入しており、若手でも十分に腹腔鏡手術を経験することができます。

都内で、横浜市大出身の医師がほとんどいない病院ではありますが、横浜とは異なった治療や手術手技が学べますし、下部消化管の腹腔鏡手術や消化器外科専門医に必要な症例が幅広く経験できると病院だと思います。また、コロナ禍が明けて、五反田の魅力も存分に楽しめるようになってきております。

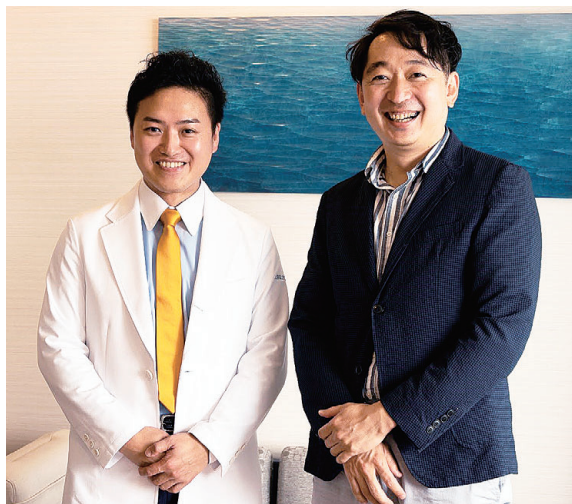
今後ともよろしくご厚意申し上げます。

(文責：樅山将士)

皆さんこんにちは！！

藤沢湘南台病院は、昭和7年、鈴木病院として鈴木文蔵により設立されて以来、湘南東部（藤沢北部）地域の中心的病院として、医療の充実に努めてきました。そして、とうとう創立90年を超えて、100周年を目指して頑張っております。現在、急性期一般病棟210床、緩和ケア病棟19床、地域包括ケア病棟30床、ICU 8床、回復期リハビリテーション病棟33床、療養病棟30床の合計330床を有しております。

現在、当院には第二外科から小泉泰裕先生と鈴木紳祐の2人、第一外科から11人の医師がおり、一体となって日々診療に当たっております。出身科に分け隔てなく、和気藹々とした雰囲気です。研修医のうち毎年1～2名が外科医になっております。襷含め1学年8名だった研修医も、2024年から単独7人、襷掛け3人と10人に増えました。とっていたら、日本出身で台湾の医学部を卒業し、台湾で数年間勤務していた先生が別枠の研修医として入職することになり、1年目は11人の大所帯となりました。



m3.の対談で「泣くな研修医」の著者
中山祐次郎先生と

これらの人員で、堅実に多くの定時手術を行いながら、「断らない診療」をモットーに、多くの緊急手術も行っております。

コロナ禍を通して、「現状維持はどんどん置いていかれる」ことを実感したため、法人全体として「良いものはスピード感を持って取り入れていく姿勢」を大事にしております。

具体的には

da Vinciサージカルシステムを用いたロボット手術を湘南東部地域で最初に導入しました。2023年末までに200例程の手術を3人の腹腔鏡技術認定医、プロクターで行い、大きな合併症なく経過しております。2024年5月にはda Vinci Xからda Vinci Xiに機器を入れ替えますので、より一層良い手術を提供できると思います。

また、2020年6月から日本で唯一「直腸脱に対するロボット支援下直腸固定術」を開始し、40例程手術を行い、再発なく経過しております。また、便漏れに対する仙骨神経刺激療法を行っており、便失禁の患者様も遠方からご紹介いただいております。便漏の患者さん自体、数百万人いると言われておりますが、直腸癌術後の患者様でみられるLARSの方にも有用な治療と言われております。第二外科の関連病院ですと、どの病院も多くの直腸癌手術を行なっておられると思います。術後の便失禁でお困りの患者様がいらっしゃいましたら、是非ご紹介いただけますと幸いです。

2023年4月からは腹腔鏡技術認定医4人体制（大腸3人、胃1人）、ロボット支援下手術プロクター2人体制で低侵襲手術を益々増やして参ります。何かやりたいことがある方、試してみたいアイデアがある方、是非当院に遊びにいらしてください。職員一同お待ちしております。

（文責：鈴木紳祐）

医療社団法人 荒川外科肛門科医院は、1985年3月16日に同門の松田好雄先生が東京都荒川区荒川にご開院され、創設39年になる19床の診療所です。延べ患者数は12万人で、近隣だけでなく評判を聞いて遠方からも受診されます。肛門疾患の診断、治療、手術をはじめ、消化管疾患を診療致します。

松田先生は、帝京大学医学部第一外科講師をされた後、所沢肛門病院（院長 金井忠男先生、S45年卒）に勤務されました。金井先生から大腸肛門疾患に特化した医院の開業を勧められ、多大なお力添えを得て、開院の運びになったとのこと。横浜から遠方でのご開業ですが、多くの同門の先生方の応援がありました。

筆者は、横浜市立大学医学部を1981年に卒業した後、女性医師第1号として外科学第二（現 消化器・腫瘍外科学）に入局しました。土屋周二教授（2019年1月28日ご逝去）のご紹介で、1991年から荒川外科肛門科医院に勤務させて頂いております。

肛門科を診療することは当時女性医師では稀でした。土屋先生のお考えは、肛門疾患を診る女性医師は少なく、これからは女性患者の為にも良いのではないかとのこと。加えて、肛門領域は解剖学的にも複雑で、個人差もあり、またその機能の重要性は屈指であり、診断・治療等にやりがいを感じることも多いのです。肛門外科を専門にしてよかったと思います。約33年間、育児、介護を含めてお世話になっております。松田先生の寛大さと現在に至るまでのご指導に感謝しております。

2003年に診療所を明治通り沿いに新築し、ご子息の松田大助医師（東京医科大学卒、外科）が加わりました。常勤は5名です。日本医科大学付属病院（外科）より1名及び東京山手メディカルセンター（大腸肛門外科）にて勤務歴のある女性医師（川崎医科大学卒）が加わりまし

た。同門の堀 嘉一郎先生及び他大学等のご協力もあって、日常診療は、安全第一を旨として最善を尽くしており、患者さんも満足されておられることと思います。

診療の要点として、

○肛門疾患では、患者さんの主訴を大事にし、QOL向上に則した診療を行います。痔疾患の手術は、腰椎麻酔下に行い、その総数は、毎年約1,000件前後です。その内訳は、四段階痔核硬化療法、痔核・裂肛・痔瘻の根治手術、直腸脱根治手術等です。

○2023年度 消化器検査の実績としては、上部消化管内視鏡検査3,893件、下部消化管内視鏡検査（大腸）5,436件、また腹部超音波検査1,015件です。下血などは即日、緊急内視鏡検査を致します。

○炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）では、いち早く生物学的製剤を導入しており、また、2017年に開始した顆粒球除去療法は、年間80件近くになっております。

当院は、東大病院の卒後臨床研修プログラムに組み込まれ、特に産婦人科入局希望者は骨盤臓器脱を含めて研修されます。医学教育の向上にも協力させて頂いております。

松田院長のご協力と同門の仲野 明先生のご提案で、筆者は、2003年から約11年間、藤沢市民病院の「女性外来」（週1回半日）を担当させて頂きました。性差診療を重視した診療のあり方や疾病の予防に目を向けるようになり、さらに地域の医療連携の新たな視点にも気づかされました。医療をより総合的に学ぶ機会となりました¹⁾。今の肛門診療に大いに活かされています。

当院は、開放的なイメージを大切にして、スタッフの活気が溢れています。肛門領域にご興味のある諸先生方は、是非ともお立ち寄り下さい。

併せて、横浜市立大学医学部 消化器・腫瘍外科学同門会の益々のご発展と皆様方のご健勝をお祈り申し上げます。

参考文献

- 1) 大高京子・常田康夫・山岸 茂・他. 女性外来に取り組んで - 藤沢市民病院における医療のあゆみ. 藤沢市内科医学会. 2020; 32: 12-24.

(文責：大高京子)



令和6年度 関連施設勤務者

(2024年4月現在)

●独立行政法人国立病院機構横浜医療センター

〒245-8575 横浜市戸塚区原宿3-60-2
TEL 045-851-2621 FAX 045-853-8359

診療統括部長 藤井 義郎 (H3)
外科部長・化学療法センター長
松田 悟郎 (H5)
外科部長 清水 哲也 (H9)
外科医長 木村 準 (H15) 村上 崇 (H18)
医 師 藤原 大樹 (H24) 木村 安希 (H25) 大石 裕佳 (H26)

●横浜市立市民病院

〒221-0855 横浜市神奈川区三ツ沢西町1-1
TEL 045-316-4580 FAX 045-316-6580

消化器外科科長 部長 望月 康久 (S62)
消化器外科医長 田中 優作 (H19) 清水 康博 (H22)
消化器外科副医長 山本 淳 (H23) 武井 将伍 (H25)
医 師 小倉 巧也 (H28)
炎症性腸疾患 (IBD) 科 科長・部長 (炎症性腸疾患センター長)
小金井一隆 (S61)
炎症性腸疾患 (IBD) 科部長
辰巳 健志 (H12)
医 長 後藤 晃紀 (H20)
乳腺外科科長 部長 嶋田 和博 (H15)
部 長 門倉 俊明 (H18)

●藤沢市民病院

〒251-8550 藤沢市藤沢2-6-1
TEL 0466-25-3111 FAX 0466-25-3545

副院長 診療部長 診療科主任部長
ゲノムセンター副センター長
山岸 茂 (H7)
医 長 牧野 洋知 (H8)
専門医長 南 裕太 (H13) 千田 圭悟 (H24) 堀 達彦 (H26)
医 師 竹之内 晶 (H30) 本田 祥子 (H31)
乳腺外科 診療科部長
菅江 貞亨 (H12)

●伊東市民病院

〒414-0055 伊東市岡196-1
TEL 0557-37-2626 FAX 0557-35-0631

副病院長 兼 診療部長 兼 外科部長
神谷 紀之 (H4)

●横須賀市立市民病院〒240-0195 横須賀市長坂1-3-2
TEL 046-856-3136 FAX 046-858-1776

管理者	関戸 仁 (S58)	
副病院長	長嶺弘太郎 (H6)	
主任医長	浅野 忠雄 (H17)	中山 岳龍 (H20)
医 師	堀内 真樹 (H27)	

●茅ヶ崎市立病院〒253-0042 茅ヶ崎市本村5-15-1
TEL 0467-52-1111 FAX 0467-54-0770

乳腺外科部長	和田 朋子 (H20)
乳腺外科医師	村上 剛之 (H26)

●横浜労災病院〒222-0036 横浜市港北区小机町3211
TEL 045-474-8111 FAX 045-474-8323

包括的乳腺先進医療センター長	乳腺外科部長
	山本 晋也 (H16)
乳腺外科医師	井上 栞 (H27)

●横須賀共済病院〒238-8558 横須賀市米ヶ浜通1-16
TEL 046-822-2710 FAX 046-825-2103

病院長	長堀 薫 (S53)		
消化器病センター長	外科部長		
	舛井 秀宣 (S62)		
外科部長	野尻 和典 (H12)		
副部長	小野 秀高 (H10)		
医 長	吉田 謙一 (H8)		
	諏訪 宏和 (H15)	大田 洋平 (H16)	太田 絵美 (H21)
乳腺外科医長	鈴木 千穂 (H22)		

●横浜みなと赤十字病院〒231-8682 横浜市中区新山下3-12-1
TEL 045-628-6100 FAX 045-628-6101

外科部長、肝胆膵外科部長		
	杉田 光隆 (H5)	
外科副部長	中寫 雅之 (H14)	
食道・胃外科医副部長		
	佐藤 圭 (H18)	
大腸外科副部長	田 鍾寛 (H21)	
医 師	矢澤 慶一 (H20)	山田 淳貴 (H24) 7月～
院長補佐・乳腺外科部長・国際医療部長		
	清水 大輔 (H8)	
医 長	須藤 友菜 (H26)	
医 師	藤田 亮 (H28)	

●済生会横浜市南部病院〒234-8503 横浜市港南区港南台3-2-10
TEL 045-832-1111 FAX 045-832-8335

外科部長	長谷川誠司 (H2)	上田 倫夫 (H6)
副部長	三宅 益代 (H21)	
医 長	豊田 純哉 (H26)	
医 員	木下 颯花 (H27)	窪田硫富人 (H29)

●JCHO横浜保土ヶ谷中央病院〒240-8585 横浜市保土ヶ谷区釜台町43-1
TEL 045-331-1251 FAX 045-331-0864

病院長	國崎 主税 (S59)	
診療部長	武田 和永 (H6)	
健康管理科部長	簾田康一郎 (S60)	
医 師	有坂 早香 (H20)	中崎 佑介 (H25)

●横浜掖済会病院 外科〒231-0036 横浜市中区山田町1-2
TEL 045-261-8191 FAX 045-261-8149

副院長	佐藤 芳樹 (S59)	
部 長	山口 直孝 (H13)	
医 員	清水亜希子 (H27) 7月～	
	山田 淳貴 (H24) ～6月	

●NTT東日本関東病院 外科〒141-8625 東京都品川区東五反田5-9-22
TEL 03-3448-6111 FAX 03-3448-6558

医 長	樺山 将士 (H14)	
-----	-------------	--

●育生会横浜病院〒240-0025 横浜市保土ヶ谷区狩場町200-7
TEL 045-712-9921 FAX 045-712-9926

院 長	長堀 優 (S58)	
-----	------------	--

●港南台病院〒234-8506 横浜市港南区港南台2-7-41
TEL 045-831-8181 FAX 045-831-8281

院 長	大塚 裕一 (H8)	
-----	------------	--

●松島病院〒220-0041 横浜市西区戸部本町9-11
TEL 045-321-7311 FAX 045-321-7330

理事長・総院長	松島 誠 (S53)	
肛門科長	松村奈緒美 (H5)	

●藤沢湘南台病院〒252-0802 藤沢市高倉2345
TEL 0466-44-1451 FAX 0466-44-6771

理事長・総院長	鈴木 紳祐 (H19)	
---------	-------------	--

●**関沢クリニック**

〒236-0053 横浜市金沢区能見台通8-28
TEL 045-786-8852 FAX 045-786-9293

関澤健太郎 (H19)

●**荒川外科肛門医院**

〒116-0002 東京都荒川区荒川4-2-7
TEL 03-3806-8213

院 長 松田 好雄 (S43)
副 院 長 大高 京子 (S56)

●**医療法人社団康喜会 東葛辻仲病院**

〒270-1168 千葉県我孫子市根戸946-1
TEL 04-7184-9000

院 長 松尾 恵五 (S59)

●**特定医療法人社団鵬友会 湘南泉病院**

〒245-0009 横浜市泉区新橋町1783
TEL 045-812-2288

三邊 大介 (H2)